

岐阜県農業技術センターニュース No.34

【ねおスイートのブランド名決定】 初販売を行いました！

(野菜・果樹部)

当センターで開発した、カキ新品種「ねおスイート」(出願公表中)の系統共販時のブランド名が、「天下富舞(てんかふぶ)」に決定し、JA全農岐阜でそのお披露目会が開催されました。

「天下富舞」は、織田信長が印に用いた「天下布武」と「富有柿」をもじり、「富」が「舞う」という願いが込められています。

10月下旬には名古屋北部市場で初販売が行われ、最上級品は、カキでは史上最高値となる2個入り30万円(税抜)で取引されました。



ベトナム・ゲアン省農業農村開発局から 2名が来所されました

農業農村開発局 栽培・植物保護部門の2名が岐阜県を訪れ、当センター本所と池田試験地を視察されました。

日本の先進的な生産施設や安全安心をテーマとした農産物生産への関心が高く、熱心に質問され充実した意見交換ができました。岐阜県とベトナムゲアン省は友好交流に関する覚書を締結し、農業や観光などの分野で交流を進めていく予定です。



強勢台木利用でトマト増収！

(野菜・果樹部)

岐阜県オリジナルのトマト養液栽培システム「独立ポット耕」は、ベンチが自作可能で高収量が得られるシステムとして開発されました。

独立ポット耕では土壌病害が少ないため、これまで自根苗を使用していましたが、より高い収量性を目指し、強勢台木による接ぎ木が大玉トマトの収量に及ぼす影響を検討しました。

穂木「麗容」を、強勢台木「アーノルド」に接ぎ木したところ、株当たりの可販収量(販売可能な果実収量)が約14kgとなり、接ぎ木をしない自根区の約12.5 kgと比較して、約12%の増収がありました。

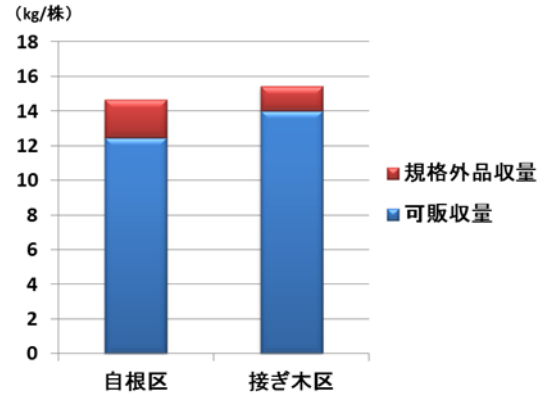


図 強勢台木がトマトの収量に及ぼす影響

小麦「さとのそら」が全面栽培されます！

(作物部)

岐阜県平坦部を中心に、平成28年10月下旬の播種を皮切りに小麦新品種「さとのそら」が本格的に栽培されます。これまで農業技術センターでは「さとのそら」が安定して生産できる施肥体系を開発してきました。平成29年の薄暑の頃には、岐阜県産小麦「さとのそら」として刈り入れを迎えます。

「さとのそら」は主にうどん用小麦粉に製粉されます。生産された原麦を製粉組合に協力いただき、うどんとしての食味評価を実施しています。従来の「農林61号」に比べて、もちりとしてコシのある麺が特徴で、試食の評価も好評です。



クリーム色をした麺の色が特徴です。

岐阜農林高校の校外研修を行いました

岐阜農林高校の1年生(5学科、各40名)が、10月末から11月にかけて当センターに来所しました。

これはスーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の一環で、各学科のテーマに沿って、それぞれの先端的研究について研修を受けました。当センターの研究員が、これまでに開発した研究成果を交えながらセンターの業務概要について紹介しました。



★★★平成28年度成果検討会を開催します★★★

日時：平成29年2月17日(金) 13時30分～

場所：農業技術センター講堂

※詳細は後日ホームページに掲載いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

岐阜県農業技術センター

〒501-1152 岐阜市又丸729-1

Tel 058(239)3131

<http://www.g-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

池田試験地

〒503-2407 揖斐郡池田町般若畑631-11 Tel 0585(45)3837